

2017年1月

第76号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888



年頭にあたって

明けましておめでとうございます。

希望に満ちた清々しい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年1年を振り返ってみますと、なんとといっても「世紀の番狂わせ」と言われている米国の次期大統領選でドナルド・トランプ氏が当選したことが一番に挙げられるでしょう。トランプ氏は「メキシコ国境に壁を作り不法移民を防ぐ」「TPPからは撤退する」「核戦力を強化拡大する」「中国の一つの中国論に組しない」等々過激な発言を繰り返しています。また、英国では国民投票でEU離脱を決議、お隣の韓国では朴大統領が国会で弾劾決議をされるなど世界が大きく揺れ動いています。昨年もまた多くの国民が願っていた「北朝鮮拉致被害者」「北方領土」は返ってくる兆しもありませんでした。

シリアでは新たな情勢変化があるようですが、アフリカ・中東での内戦、ヨーロッパ各地でのテロは後を絶ちません。一日も早い紛争の解決を望みます。

わが国では、大隅良典東京工業大学名誉教授がオートファジー（細胞の自食作用）の仕組みを発見しノーベル賞受賞に輝いたこと、リオ・オリンピックで日本選手が41個のメダルを獲得し2020年の東京大会に弾みをつける大活躍をしたこと、イチローが日米通算最多安打を成し遂げたこと、外国人旅行者が2千万人を突破したことなどが明るいニュースでした。

また、天皇陛下がご退位のご意向を示唆されたことや、小池氏が女性初の東京都知事に選出され「都民ファースト」の視点で改革に取り組んでいること、オバマ大統領が広島訪問・安倍総理が真珠湾を訪問するなど両国の絆をより強固なものとする行為などが大きな話題となりました。

暗い悲しい出来事もありました。4月14日の熊本地震では50人の犠牲者を出したほか熊本城を含む住宅約4万棟が全半壊しました。さらに12月22日には新潟県糸魚川市で144棟を焼損する大規模火災が発生しました。不幸にして被害に遭われた方々に対して心からお見舞い申し上げたいと思います。

さて、今年は「酉年」。この酉は、収穫した作物から酒を抽出するとか果実が成熟した「実る」状態を表す文字とされています。また、鳥は人に時を知らせる動物。「とり」は「とりこむ」と言われ商売で縁起が良く、酉の干支の特徴は「親切で世話好き」とも言われています。

1月にいよいよ米国でトランプ大統領が誕生しますが、日本との関係のみならず、ロシアや中国の関係がどう変化するのか、トランプ現象で為替が円安に振れ、株価が上昇しているが経済にどのような影響を与えるか目が離せません。国益だけではなく世界が平和で繁栄する道を探っていただきたいものです。

仕事と読書（「人を惹き付ける経営」より）

元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

* 昭和電工最高顧問をされた鈴木治雄氏は、すぐれた読書家でもあった。仕事に全力で当たる一方で読書プランを立ててずっとやってきた。

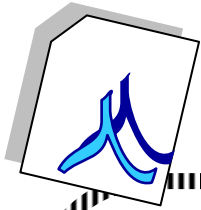
鈴木さんは経営というきびしい仕事と読書を両立させてきた経験から、いま心の糧としてすべての人、とくに企業のリーダーには古典を読んで欲しいと熱く語られた。現代のように激動する時代、不確実な時代、価値観多様化の時代においては、自分の人生観、価値基準をしっかりと持ち、自分を見失わずに変化に対応していくことが何より大切なのだと教えてくださった。

そして「日本の生んだすぐれた経営者はみんな、企業のなかで従業員にたいして、お客様にたいして、心を語っている。どんな時代になっても、心を語る経営者は社会で歓迎され、尊敬されていく」ということをおっしゃった。それに加えて「企業家には色気が必要だ。色っぽさ、粋な力、これが組織を動機付けるモチベーターの条件だろう」とおっしゃったのだ。

* 鈴木さんには、経営とはマネジメント以前に人間と社会であるということを知る大切さを、わたしは教わった。インテリジェンス パッションとでもいうべき「人は学ばば学ぶほど迷うことが多くなる。その迷うことが、また考えを深めることではないか」と教えもいただいた。

* 鈴木さんはゲーテもしっかり読んでおられて、ある勉強会では「どんな人にせよ、絶えず努力して励むものを私たちは救うことができます」という天使のことばを『ファウスト』から紹介してくださった。またゲーテは「自分はみんなから幸せな人間だと誉めそやされてきた。しかし自分の人生航路にケチをつけたくないが、実際は苦勞と仕事以外の何物もない。岩をくり返し押し上げようとしながら、岩を転げ落としてきたようなものだ」（『ゲーテとの対話』）と語っていることを教えてくださった。それを聴いた企業リーダーは大きな勇氣を与えられたものだ。

「努力するものは救われる」ということばを大事にして新たな人生に挑戦する、あるいはつねに岐路に立ちながら日々の経験を次の仕事のこやしにして、自分のやり方・考え方を一皮も二皮もむいていこうと感応することは、とても意義があると思っている。日々深く生きる知恵をおもちだった鈴木治雄氏の言葉に強い感銘を受けた。



北原 白秋 (日本を代表する詩人、童謡作家、歌人)

- 明治 18 年 1 月 25 日 (1885 年) 熊本県玉名郡関外目村で、酒造業をしていた父長太郎・母シケのもとで生まれる。まもなく、福岡県山門郡沖端村（現・柳川市）の家に帰る。
- 明治 24 年(1891 年) 矢留尋常小学校入学。
明治 30 年(1897 年) 県立伝習館中学に進むも成績下落のため落第。このころより詩歌に熱中、雑誌「文庫」「明星」などを濫読。
- 明治 37 年(1904 年) 父に無断で早稲田大学英文科予科に入学。上京。
明治 38 年(1905 年) 「全都覚醒賦」が早稲田学報懸賞で 1 等に入選。
明治 39 年(1906 年) 新詩社に参加。与謝野鉄幹、与謝野晶子、木下杢太郎、石川啄木らと知り合う。「明星」で発表した詩は、上田敏、蒲原有明、薄田泣菫らの賞賛を得た。
- 昭和 9 年(1934 年) 「白秋全集」完結。歌集「白南風」刊行。この間、多数の詩集、童謡集、学校校歌作詞などを創作。秋田県立花輪高等女学校の校歌も作詞北原白秋・作曲山田耕作で作成されている。
- 昭和 16 年(1941 年) 芸術院会員に就任。
昭和 17 年 11 月 2 日 (1942 年) 阿佐ヶ谷の自宅で病気のため逝去。享年 57 歳。

おすすめの BOOK



『現代の覚者たち』

編著者 森 信三ほか 発行所 致知出版社

本書は、森信三（哲学者）・鈴木鎮一（音楽家・教育者）三宅廉（周産期・小児科医師）松野幸吉（元ビクター社長）平澤興（元京都大学学長）関牧翁（僧侶）坂村真民（歌人・詩人）たち 7 名に対するインタビュー集。

それぞれが人間いかに生きるべきか、人間の生命の尊さ、人間の無限の能力、などについて語っている。

日頃忘れがちとなる他者への思いやりや、気配りの大切さなどについて自らの実生活の体験を通じての言葉は重い。



体の潤滑油（体の働きに感謝しましょう）

新しい年を迎えました。年末年始は、つい食べ過ぎたり、運動不足に陥りがちです。体調はいかがですか。体の働きに感謝しているでしょうか。

口に入った食べ物は、黙っていても食道から胃に送られ、消化されます。膵臓からは分解酵素が分泌され、小腸での内容物の分解・吸収を助けています。

一方、筋肉も体を動かしたり、体温を上昇させる熱を生み出したりと大忙しです。寒い季節の肉体労働は、特に筋繊維に多量の血液を要します。

心がけたいのは、体に声をかけることです。たとえば、物を持ち上げる時に、「腰さん、これから重い物を持ち上げるよ。よろしく頼むね」と腰に手を当て、ポンポンと軽く叩くなどして、メッセージを届けるのです。

声をかけあうことが円滑な人間関係につながるのと同様に、適切な声かけや思いを向けることは、身体機能の潤滑油としても欠かせません。

最も身近な存在である手足、内臓に対して「いつもありがとう」と、ひと声かけてみましょう。今日の働きが一段と活発になるに違いありません。

心と心をつなぐ言葉（挨拶で心をつなごう）

文化庁が行った直近の「国語に関する世論調査」によると、「美しい日本語があると思う」と答えた人が、全体の90.8%にのぼり、多くの人々が「思いやりのある言葉」や「挨拶の言葉」に美しさを感じていることがわかりました。

「どのような言葉に出会ったとき、心と心をつなぐ言葉の大切さを感じるか」という質問には、「地域や職場で気持ちよく挨拶をし合うとき」が一位でした。

そして、「山道などで行き会った者が『こんにちは』などと声を掛け合うとき」という回答が二位という結果となりました。

挨拶が、人の心と心をつなぐ大切な実践項目であることには、誰しも異存はないでしょう。

例えば「おはようございます」という挨拶一つでも、互いの心の距離がぐっと近づきます。なぜなら、そこには「今日一日、仲良く励みましょう」という、平和宣言ともいえる意思も含まれているからです。

さあ、今日も互いに、明るい声で挨拶を交わしましょう。

職場の教養1月号から2話を載せました。「能」の第一人者として知られる世阿弥の言葉に、人を感動させる魅力を「花」に例えるなら、「時分の花」と「誠の花」がある。若さゆえに美しくても、時とともに散ってしまうのが「時分の花」。それに対し、たゆまず己を磨いた人は、時とともに美しさを増す。それが「誠の花」である。今年も色んなことに触れる機会を持ち、自分磨きをしたいと思います。



ダイヤモンド富士

【編集後記】

プーチン大統領が来日しての安倍総理との首脳会談。北方領土が少しは動き出すのではないかと大いなる期待を寄せたが、今回はロシア側のしたたかな外交の前に押し切られた感がある。

しかし、ロシアの事情として「この地に米軍基地を作られた日にゃたまったものではない」という本音も垣間見える。

今後は両国の一方の法律に縛られない4島での共同経済活動をどう進めるか、その交渉を注視してゆきたい。問題は我が国国民があきらめることなく北方領土返還を求め続けることである。